

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0891600140		
法人名	医療法人社団栄進会		
事業所名	いきいきの家笠間(愛宕ユニット)		
所在地	茨城県笠間市笠間4386-1		
自己評価作成日	2021年9月1日	評価結果市町村受理日	2022年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0891600140-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笠間駅から近く、コンビニや病院、薬局等が隣接されているため立地が良い。
 施設の中庭にシンボルツリーのしだれ桜が植えてあり、施設内からでもお花見を楽しむことができる。
 今年もコロナウイルス対策のため、外出行事はほぼ行っていないが、施設内で楽しめる行事を多々行っている。
 入居者様の状態により、関連施設への受け入れ支援も行える。
 グループホームでも看取り可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JRの駅に近い静かな住宅地に立地し、隣の神社境内には大きな枝垂れ桜があり、花見や散歩を楽しむことができる。予約制で窓越しでの面会を実施。新型コロナの感染拡大が落ち着いてきたことで対面での面会再開を検討している。コロナ感染の怖さを理解できる利用者は外出することを望まなくなっており、職員はアットホームな『笑顔あふれる介護』をめざして、食事レクなどの室内での活動を充実させた支援を実施している。関連施設の老健と連携しながら、最期まで利用者や家族の思いに沿った支援ができるようにしている。*** 新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の【いつまでも自分らしくいられる生活】を目標にかかげ、職員の目にする箇所に掲示し目標に対しての評価を半年に1回行っている。	理念とグループホーム独自の目標をタイムカード下や更衣室、ユニットに掲示し、職員がいつでも見て確認できるようにしている。職員は、個人の目標ともリンクさせ、理念を意識して支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症対策の為、制限を設けている。今年度は今の所地域行事には参加していない。	近くの公園や神社の境内を散歩しているが、人が少ない時間を見計らっており、地域の方とはほとんど会わない。イベントも中止になっており、地域の方との交流はできていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染症対策の為、今年度は地域との関りも制限している状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。 行政職員、地区会長、居宅ケアマネ、ご家族、近隣薬局職員に出席していただき、意見交換を行っている。	市と協議の上、推進会議を対面で開催している。行事報告や事故報告がメイン。出される意見はコロナに関するものが多くなった。玄関に議事録を置くほか、全家族に会議開催通知と議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営についての相談を随時行っている。 社会福祉協議会の共同事業にも参加。	疑問等があった時には電話や出向いて相談をする。要介護認定の更新手続きに行くなど、担当課とは良好な関係を築いている。社協の事業は自粛となっており、今年度は参加できていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束についての委員会を開催している。 身体拘束ゼロにむけて、見守り体制の整備を行っている。 玄関は夜間を除き、解錠している。	身体拘束委員会は毎月実施しており、会議録を作成している。車いすの安全ベルトを装着している方が数名いたが、様子を観察して話し合いながら、外す取り組みをして、現在はほとんど使用していない。経過記録をきちんとつけている。委員会時には資料を用意したり、動画をみながら、拘束についての勉強会を行っており、参加していない職員にも周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて、防止に努めている。 コロナ終息後は、外部研修も取り入れたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ終息後は、外部研修に参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書にそって、ご家族に説明している。 定めのない事項については、都度話し合いにて対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関先に意見箱を設置。 その他、来訪時や電話、メールにて意見を聞かせていただいている。	利用者からは食べ物に関する要望が多く、要望に沿えるよう努力している。家族から職員の対応や言葉遣いに関しての意見があり、管理者から注意をした。2~3ヶ月毎にお便りを作って送るほか、請求書送付時に個別に写真付きの通信を同封して利用者の様子を知らせている。面会は窓越しや玄関先など制限せざるを得ず、オンライン面会の準備を進めつつ、対面での面会再開を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個別面談により、意見を聞く場を設けている。	脱衣所のヒーターをエアコンに変える提案があった。テイクアウトを手作りしようとの案が出たり、職員からは経費削減の為の積極的な意見がだされ、可能な限り受け入れている。目標管理に関して半年毎に面接を行い、賞与に反映させている。職員からは、管理者には相談や意見が言いやすい環境であると話があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回給与の見直しを行っている。 有給休暇や特別休暇は遠慮なく消化できる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染症対策により、外部研修を控えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症対策のため、訪問は避けているが、随時電話等でやりとりをさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人の訴えや要望を聞き、可能な限り希望にそえる取り組みをしている。 コミュニケーションをとる時間を多くとり、信頼関係を築ける努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも遠慮なく、来訪時や電話、メールにて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況により関連施設の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の一部を一緒に行い、役割を持って生活できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なにか要望があった際は、速やかに電話連絡をし対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の許可があれば、友人や知人の面会も可能としている。 手紙のやりとりの援助も行っている。	孫や孫の友だちの訪問があり、窓越しに面会する利用者がいる。便箋の購入や投函する支援をしている。新聞を個人で購読したり、青汁を飲むなど、自宅での習慣を継続する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションや行事等を通し、入居者間で交流がもてるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談や問い合わせがあれば、随時相談支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、希望や要望を聞き、どうやったら実現できるか検討している。	「まんじゅうが食べたい」など、食べ物の要望が多く、そのリクエストに応えるようにしている。コロナ禍を理解できる利用者からは「今は出かけることは我慢しよう」という声も聞かれる。言葉が聞き取れない方については、表情を見たり、試して反応を見るなど、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や身内の方に聞き取りをし、馴染みの生活に近づけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録やカンファレンス等を通し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、ケアの見直しやニーズの把握に努めている。	計画作成者がアセスメントを行い、プランを作成。半年毎に記録や利用者と職員の意見を聞いてモニタリングし、次の計画に繋げている。コロナ禍で、家族には郵送して電話で説明し、本人がサインすることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や医療記録もとに、情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況により関連施設の紹介を行っている。状態によって医療サービスの導入も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事やボランティア受け入れは、コロナウイルス感染症対策の為、制限をかけており、今年度の実施はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いままで通ってた医療機関に通院していた。状態により、かかりつけ変更や訪問看護を導入して対応している。	利用前のかかりつけ医受診、家族介助を基本としているが、職員が通院介助することが多くなった。家族介助の場合には、口頭で日ごろの様子を伝えている。通院が困難になった時には、家族の承諾を得て、訪問診療、訪問看護を導入している。歯科は必要に応じて通院しており、近所の歯科医から住診可能との申出があった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、関連施設より看護師に来所していただき、入居者の健康チェックを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問や電話等により情報交換や相談を行っている。また、退院後の生活の場として入居受け入れも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明させていただいている。看取り期になった際は、家族の希望を確認し、施設変更や訪問看護を使っての看取りの説明をさせていただいている。	重度化した時には、24時間対応の訪問診療協力医と家族、職員が、医療機関の同意書による項目をチェックし、話し合いで決めた方針に沿って支援している。看取りの研修に参加した職員は資料を提供したり、職員全体に伝達研修をして周知している。職員からは、24時間連絡が取れ、毎日細やかな申し送りを実施しており、管理者の協力も得られるので、不安は少ないとの話が聞けた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや委員会を通し、急変時の対応を把握してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練の実施。	災害別のマニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っており、10～15分で避難ができています。訓練時に区長や近所の方が見に来ることもあった。玄関以外の非常口には段差があり、下は砂利になっている。水や寒さ対策等の備蓄を増やしているが、置く場所がないことが課題。食料品は老健に、本部には電力車がある。持ち出しグッズも準備中。職員は、訓練はスムーズだが、もしもの時に同じようにできるか心配とのこと。	段差と砂利がある非常口からの安全な避難、停電時の発電機導入などについて、職員間でよく検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月。接遇に関する委員会を開催し、入居者や家族に対する対応の見直しを行っている。言葉使いの悪い職員には、別に個別指導を行って改善するよう指導している。	接遇委員会では、家族から意見があった職員の言葉遣い、トイレや入浴時の声かけ、ユマニチュードなどについて勉強し、職員のレベルアップを図っている。契約時に写真の掲示や掲載について同意を得ているが、SNS等については改めて同意を得る予定。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思を伝えるのが困難な方でも、どういった希望がありそうか、本人の気持ちになって考える努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設のスケジュールにとらわれることなく、個人の生活リズムも大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は訪問美容室を利用。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は基本業者委託だが、希望により配送を止め、手作りやテイクアウト等により食べたい物を食べていただいている。	食材業者による食材での調理が基本。利用者が畑で収穫した大根や芋、葉物、スイカなどで一品追加することもある。月に1回はテイクアウトや利用者と食事作りをしている。おやつ作りには利用者が参加することも多く、粉を混ぜるなど、簡単な作業を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった食事形態で提供。毎日、食事量や水分量の記録をし、血液検査の数値やBMI等から栄養状態評価を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。 状態により歯科受診の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	長期汚染を防ぐ為、こまめに排泄表を確認し、誘導や介助を行っている。 トイレの討えがない方でも、オムツ対応にせずトイレでの排泄ができるよう支援している。	立位が取れる方にはトイレで排泄できるよう支援しているが、二人介助が必要な方のトイレでの排泄は困難である。排泄チェック表や様子を見ながらトイレに誘導している。排便チェックを参考に便秘対策への配慮をし、必要な方には医師から薬の処方がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療職と連携し、内服薬の調整や生活の見直しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低、週2回の入浴の実施。 予定日以外でも、状況により入浴できる体制を整えている。	週2回、午後入浴が基本だが、利用者の状態により清拭や毎日の入浴も支援。ゆず湯や入浴剤などを楽しんでいる。足拭きマットは個別の対応。脱衣所にヒーターを置いていたが、職員意見によりエアコン設置の工事中であった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠くなるまで、TVを見たり談話したり自由な時間を過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や副作用等について把握し、状態観察を行っている。 関連薬局の薬剤師から、薬剤指導も受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭内での役割を施設でも行える環境作りをしている。 嗜好品は希望があれば、買い物支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症対策の為、人が集まる場所の外出は制限している。 近隣の散歩や、人がいない時間帯にドライブ等を実施した。	コロナ感染予防のため、近隣を散歩したり、神社の桜の花見を楽しんだり、車から降りないドライブなどを支援している。コロナ感染の怖さを理解し「おっかないから我慢する」と話す利用者もいる。感染拡大も落ち着いているので、山へのドライブを予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設立て替えにて対応。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務の電話を使用していただいている。 手紙の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は明るさを変えられるようにしてあり、好みの明るさで生活できる。 月ごとに掲示物を変え、季節感を味わえるよう工夫している。	廊下や食堂には、利用者と職員で作ったモミジなどの季節を表す折り紙工作が掲示されている。イベントを楽しむ写真も掲示されていた。両ユニットの食堂から陽当たりのよい中庭を眺めることができ、調査日は洗濯物が干され家庭らしさを感じた。食堂には、加湿器や空気清浄機を設置し、温度設定やテーブル・椅子の配置などで個別の暑さ寒さに対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全部屋個室となっており、一人の時間を思い思い過ごせる。 ホールにはTVやソファを設置している為、仲の良い方とのんびり過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火の元になるものは制限しているが、その他は自由に馴染みの家具等を持ち込んでいただいている。	入り口の表札には、毎月の作品が飾られている。たっぷりしたクローゼットに収納ができ、部屋を広く利用できる。テーブル、いす、テレビなどを置いたり、仏壇を置いて毎日拝んでいる方もいる。危険な動作につながる物については、持ち帰りをお願いすることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は滑りずらい素材で、段差もなく歩行しやすい環境。自分で行えることは可能な限り行っていただき、残存機能を大事にしている。		

(別紙4(2))

事業所名 :いきいきの家笠間

目標達成計画

作成年月日 :2022年1月11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の避難訓練を行っているが、非常口を実際に使った訓練は行ったことがない。	実際に非常口を使った訓練を実施し、安全な避難方法を検討していきたい。	今年度の訓練で、非常口からの訓練を実施する。	12ヶ月
2	49	コロナ化ということもあり、外出の機会が少なく、室内にこもりがちになっている。	感染予防を徹底し、外で気分転換ができる機会を設ける。	感染状況を見ながら、外に出るイベントを企画する。 感染状況が落ち着かない際は、少人数で社内からおりにずいドライブ等で気分転換ができるようなイベントを実施する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。